はじめに（知事あいさつ）

万歳、南米県人の皆様

香川県知事 真鍋武紀

私は、2003年5月27日から南米のパラグアイ、ブラジル、ペルーの3カ国を訪問し、それぞれの香川県人会の記念式典に出席して意見交換を行い、皆様の活躍ぶりに心強く思いました。

2003年は、県人が移住して、ペルーは100周年、ブラジルは90周年、パラグアイは県人会創設30周年に当たり、大きな節目の年であります。これを記念し、本県の国際化に先鞭をつけた南米移住者のご功績を称えるとともに、そのご労苦を偲び、移住の歴史を体系的に取りまとめた「香川県南米移住史」が初めて発刊されますことは、誠に意義深いことであります。

移住された方々は、大きな希望を持って太平洋や大西洋を渡り、風土や習慣、言葉などすべてが異なる新天地で、広大な森林や荒野を自らの力で切り開くなど、幾多の困難を克服し、勤勉さと努力で今日のゆるぎない基盤を築かれておられます。私は、県人の皆様から、讃岐弁を交えて郷土への思いやご苦労されたお話をお聞きし、胸が熱くなりました。

今日、それぞれのお国の発展のために、一世の方々とともに、二、三世の方々が、南米各地の様々な分野で多大の貢献をしておられます。私は、今回、パラグアイの大統領から「日本移民は優秀で、国の発展に大きく貢献している」との言葉をいただき、感激するとともに、誇りに思いました。私たち県民は、移住の歴史や、日本よりも日本らしい文化が連綿と続いていることに、思い巡らすべきであると思います。

100年前の1903年は、高松～岡山間の連絡船が就航したのをはじめ、電気事業が高松に次いで丸亀・多度津で開始されたり、各地で乗合馬車の営業が認可されるなど、現在とは隔世の感があります。100年の歴史を振り返り、記録にまとめることは、容易ではありませんでした。編纂に当たり、編集委員の皆様には、国内外の移住関係者等からの取材や資料収集にご協力いただいたほか、移住者の方々から、お話をお伺いしたのは47名、投稿文をお送りいただいたのは38名に上り、大勢の皆様のご協力、ご支援をいただきました。関係の皆様方に、改めて心から感謝いたします。

この記念誌を通じて、南米各国の県人会の皆様と県民の皆様との相互の交流が一層進展するとともに、本県の国際化に生かされていくことを念願しております。

Copyright © Kagawa Prefecture All Rights Reserved.